

市議会議員活動3期（自民党）

○議会質問

・H 27年

「生活保護」

「公民館と自治協議会」

・H 28

「高齢者福祉サービス」

「九大箱崎キャンパス跡地」

「雁ノ巣レクセンター」

・H 29

「国保の県単位化」

「大規模スポーツ大会」

・H 30

「市の財政状況」

「マイナンバー制度」

「子ども子育て支援新制度」

「BRTと連節バス」



今林ひであき

市政報告

【発行者】

福岡市東区
塩浜一丁目16-25
今林ひであき事務所
TEL. 092-605-6515



○高齢者福祉サービス（H 28年）

市は、今後の福祉のあり方として「配る福祉」から「支える福祉」に転換するとしている。

「配る福祉」の中で、バラマキ・形骸化（一部の方しか利用していない）事業は廃止すべき。

※寝具消毒サービス（60人利用）
移送サービス（95人利用）
などは、廃止すべき

一方、「配る福祉」の中でも、「高齢者乗車券」は、外出支援（閉じこもりの方を外へ）健康づくりにも役立っている。さらに多くの方（約10万人）に平等に提供されているため、今後とも維持すべき。

生活保護費は高い

○生活保護費が、国民年金や最低賃金に比べて高いため、見直しが必要。

セーフティネットの枠を超えているように見える。今後とも維持し、必要な方に提供するためには、年金の引き上げと生保の引き下げが必要ではないか。

※H25年30年の生活保護基準の見直しにより、段階的に引き下げられている。一方、子どもの進学支援などは手厚くなっている。

雁レクの駐車場有料化

○球場の利用料を徴収しており、2重取りではないのか。

今、有料化するなら、有意義に使うべき

※施設の改修(トイレ・バックネット等)や利用者サービス(新しい自転車)の向上に充てる。

「市の役割(公助)」と「自治協の役割(共助)」

○市の責任は、公的な役割として、市民の安全や健康を守ること。

では、市からの補助金は何なのか、少なく、縛りも多く、責任を自治協に押し付けていないか。

※市は「市からの補助金の使途は、校区の実情・特性に応じて、地域で決めてもらう」との答弁

しかし、市が責任を感じているなら、もつと地域を大切にすべきと思います。補助金は、少しは増えましたが、まだまだです。

和白・雁ノ巣幼稚園跡地

○跡地については、地域の意見を取り入れ、子ども施設・福祉施設を誘致すべき。

※和白跡地は保育園に
雁ノ巣跡地は、福祉・子ども施設に。

○議員活動3期を振り返り、

・地域の意見・声を市行政に届けたいとの思いで、活動してまいりました。

・実現できたこともありますが、まだまだ、取組みたいことが、たくさんあります。

・議会質問も、市の将来を見た視点地域の大事な視点を中心に行いました。

・詳しくはホームページに掲載しています。

・これからも皆様方の声を、届けてまいりたいと思います。、ご意見を聴かせてください。